



海外投資に保証を ■ 事業機会を確実に



年次報告書 2012



2012年度、加盟途上国でのプロジェクトに対してMIGAが発行した投資保証は総額27億ドルに達しました。また、MIGAが管理する信託基金を通じて、1060万ドルの投資保証が発行されました。MIGAが新たに発行した保証額としては過去最高で2年連続の記録更新となり、保証を受ける地域やセクターの幅が広がったことも特徴です。保証を受けたプロジェクトの58%が、MIGAが考える4つの戦略的重点分野のうち少なくとも一つの分野に取り組んでおり、新規保証総額の70%を占めています。2012年度の総保証残高は5年連続で過去最高を記録しました。

## 2012年度の概観



投資保証の発行額	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	1990～2012年度
被支援プロジェクト数	24	26	19	38	50 <sup>1</sup>	701
新規プロジェクト <sup>2</sup>	23	20	16	35	38	-
継続の被支援プロジェクト <sup>3</sup>	1	6	3	3	12	-
保証契約発行数	38	30	28	50	66	1,096
新規保証額、合計(十億ドル) <sup>4</sup>	2.1	1.4	1.5	2.1	2.7	27.2
総保証残高(十億ドル)	6.5	7.3	7.7	9.1	10.3	-
純保証残高(再保険差し引き後)(十億ドル) <sup>5</sup>	3.6	4.0	4.3	5.2	6.3	-

<sup>1</sup> さらに2件のプロジェクトがMIGAが管理するヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金を通じて支援を受けた。

<sup>2</sup> 2012年度に初めてMIGA支援を受けたプロジェクト(拡大を含む)。

<sup>3</sup> 過年度および2012年度にMIGA支援を受けたプロジェクト。

<sup>4</sup> 協調引受プログラム(CUP)を通じた調達額を含む。

<sup>5</sup> 総保証残高は最大の債務総額を示す。純保証残高は総保証残高から再保険を差し引いたもの。

## 業務の概観

2012年度にMIGAが保証したプロジェクトの内訳

	被支援 プロジェクト	被支援プロジェクト 全体に占める割合 (%)	投資保証発行額 (百万ドル)	プロジェクト総額(ドル)に 占める割合 (%)
<b>重点分野<sup>1</sup></b>				
IDA融資適格国 <sup>2</sup>	24	48	1,090.5	41
「南・南」投資 <sup>3,4</sup>	11	22	589.4	22
紛争の影響下にある国々	9	18	340.7	13
複合プロジェクト <sup>5</sup>	12	24	1,581.7	60
<b>地域</b>				
アジア・大洋州	4	8	305.9	12
ヨーロッパ・中央アジア	20	40	928.0	35
ラテンアメリカ・カリブ海	3	6	353.6	13
中東・北アフリカ <sup>6</sup>	6	12	432.9	16
サブサハラ・アフリカ	17	34	636.4	24
<b>合計<sup>6</sup></b>	<b>50</b>		<b>2,656.8</b>	
<b>セクター</b>				
農産物ビジネス・製造・サービス <sup>6</sup>	25	50	506.0	19
金融	11	22	482.3	18
インフラ	13	26	1,549.0	58
石油・ガス・鉱業	1	2	119.5	5
<b>合計<sup>6</sup></b>	<b>50</b>		<b>2,656.8</b>	

1. 複数の重点分野にまたがるプロジェクトもある。

2. 世界で最もまずしい国々。

3. MIGA加盟途上国（カテゴリー2）から別のMIGA加盟途上国への投資。

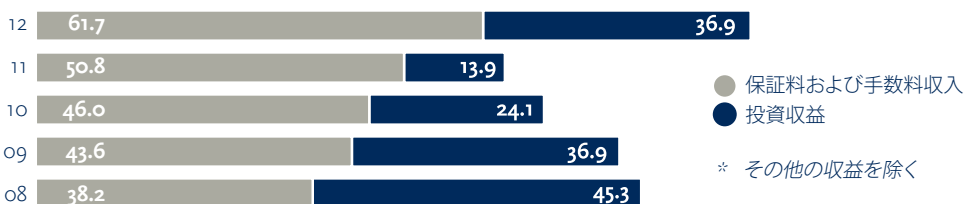
4. この数値は、途上国の投資家が関わるプロジェクトの合計値を示す。

5. インフラ、資源採掘産業、複雑な資金調達手段などの複合プロジェクト。

6. 総額870万ドルのプロジェクト2件はMIGAが管理するヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金を通じた支援も受けている。

本年度のMIGAの業務利益は、前年度の970万ドルを上回る1780万ドルでした。

## 受取保証料、手数料、投資収益\* (百万ドル)



## 世界銀行グループの2012年度

### 概観



世界銀行グループは、世界有数の規模を誇る開発機関の一つとして数えられ、世界中の途上国への財政支援や技術支援の主要な供給源となっています。世銀グループの各機関は、互いに協力し、それぞれの活動を補完し合いながら、貧困を削減し、人々の生活を向上させるという共通の目標をめざしています。世銀グループは、途上国の人々の利益となるよう、農業、貿易、金融、保健、貧困、教育、インフラ、ガバナンス、気候変動などの分野で知識の共有やプロジェクトへの支援を行っています。

2012年度に世銀グループは530億ドルの援助を約束しました。

IDAとIBRDで構成される世界銀行は、加盟国に対して、353億ドルの融資および無償供与（グラント）を承認しました。このうち、世界の最貧国を支援するIDAの承認額は147億ドルに達しました。

IFCは、途上国の民間セクターの開発向けに150億ドルの拠出を承認したほか、追加的に50億ドルを供給しました。また、総額の半分近くはIDA融資適格国に向けられました。

MIGAは途上国への投資を支援するために27億ドルの保険を引き受けました。本年度はニジェールと南スーダンの2カ国がMIGAに新たに加盟しました。

#### 世銀グループ間の協力

世銀グループの各機関による共同プロジェクトや共同プログラムは、途上国における金融市場の拡大、投資家や民間金融機関による投融資の保証引き受け、よりよい投資環境を整備するための助言サービスの提供を通して、持続可能な開発を促進することに重点を置いています。世界銀行、IFC、MIGAは共に協力しながら、高い革新性と迅速な対応

力をもって、プロジェクトの資金をいち早くクライアントに供出できるよう努力しています。本報告書には、そうした様々な例が盛り込まれています。

#### 世界銀行グループは、密接に関連しあった5つの機関で構成されています。

**国際復興開発銀行 (IBRD)** は、中所得国および信用力のある低所得国の政府に対し融資を行っています。

**国際開発協会 (IDA)** は、最貧困国の政府に対して無利子の貸付（すなわち融資）とグラントを提供しています。

**国際金融公社 (IFC)** は、途上国への民間セクター投資を促進するために融資、出資、助言サービスを提供しています。

**多数国間投資保証機関 (MIGA)** は、途上国への対外直接投資 (FDI) を促進するために政治リスクや非商業的リスクから生じた損失に対する投資保証を提供しています。

**国際投資紛争解決センター (ICSID)** は、国際的な投資紛争の調停ならびに仲裁の場を提供しています。

## 首脳陣の見解

### ロバート・B・ゼーリック世銀グループ 総裁 (2007-2012) からのメッセージ

この5年間は世銀グループにとって試練の時でした。クライアントのニーズに対応するうえでの世銀グループの能力が試されました。途上国も先進国も同様に、食糧危機、燃料危機、そして金融危機という三重の脅威にさらされてきました。

各国は飢餓、貧困、失業、債務という課題に直面しています。これらは経済、社会、人間に関わる危機として、政治にも影響を及ぼしています。世銀グループはこうした困難な時代において、柔軟性、迅速性、革新性を持って、結果を重視しながら、クライアントへの支援を強化してきました。困難を乗り越えながら、世銀グループは機会と希望を模索してきました。

世銀グループの加盟国は、優れた財政支援によってグループの優先事項とパフォーマンスを支えてきました。IDAが2007年と2010年に実施した2度の資金補充では900億ドル以上を調達し、記録を塗り替えました。IBRDが2010年に20年以上ぶりに増資した際にも、加盟国はこれを支持しました。現在、世銀グループは十分に資金力のある金融機関としてトリプルAの格付けを付与されています。

世銀グループは、世界経済において複数の成長軸が出現したことを受けて、多国間主義の近代化を進めています。また、情報開示を進めつつ、より一層の説明責任を果たしながら、開発の民主化に取り組み、知識や情報の共有を図っています。世銀グループは、社会的説明責任の向上、腐敗との闘い、ガバナンス改善に向けて基礎作りを進めています。世銀グループはあらゆる地域の貧困層、特にアフリカの貧困層に焦点を当て、最も弱い人々を守るために財政的な信頼性と思いやりのあるセーフティーネットの必要性を強調してきました。同時に、成長の推進役として重要性を増している中



途上国向けに新たな商品を開発しました。世銀グループは、ジェンダーの平等、食糧安全保障、気候変動と生物多様性、インフラ投資、防災、金融イノベーション、社会的一体性などの課題に取り組んでいます。

世銀グループは、開発における民間セクターの中心的な役割に特に配慮しています。世銀グループは投資と民間セクターの活動のための環境整備を支援しており、具体的には、中小企業向け融資やマイクロファイナンスの拡大、貿易金融の支援、官民パートナーシップのアピール、紛争影響国や脆弱国など最も投資を必要としている国への投資推進を行っています。

本報告書はMIGAがこれらの目標を達成するために2012年度に実施した活発な支援活動を紹介しています。本報告書は、MIGAが途上国に外国から直接投資を呼び込み、経済成長の支援、貧困の削減、国民生活の改善を実現するという使命を果たしていることを実証するものとなっています。世界の投資環境がますます不安定なものとなり、MIGAのクライアントがフロンティア市場に機会を求め、政治的リスクを軽減するためのメカニズムに対する関心が高まっています。MIGAは現場で存在感を高め、さらに、過去2年にわたり組織内の改革を実施した結果、このような状況に十分対応できる態勢を整えています。

MIGAが2012年度に発行した新規の投資保証は27億ドルで、前年比27%増加となりました。MIGAが支援したプロ

プロジェクトは52件で、この中にはMIGAが管理するヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金を通じて支援した2件のプロジェクトも含まれています。これに対し、2011年度の支援件数は38件でした。MIGAの総保証残高は過去最高の103億ドルで、2009年度から2011年度までの平均を29%上回り、2011年度の実績比では13%増となりました。MIGAは最貧国における投資支援、紛争影響国への投資、複合的・転換的プロジェクト、「南・南」投資、の4つを戦略的重点分野として位置づけていますが、2012年度に支援したプロジェクトのうち58%はこの4つの分野のうち少なくとも一つの分野に取り組んでいます。新規プロジェクトの半数近くは最貧国を支援しています。

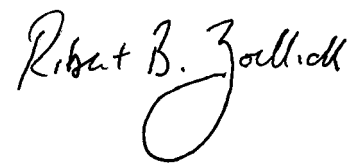
MIGAは開発インパクトが強く、経済的にも環境的にも社会的にも持続可能なプロジェクトの推進に力を注いでいます。この方針はMIGAが過去1年の間に支援したあらゆる地域や様々な分野のプロジェクトに反映されています。その例として、ガーナのエネルギー・プロジェクトやコートジボワールの官民パートナーシップによる有料橋梁、アルバニアの水力発電プロジェクト、ケニアの民間電力プロジェクト2件、ヨルダン川西岸のナツメヤシ農園、アフガニスタンの電気通信プロジェクトなどが挙げられます。こうしたプロジェクトのすべてにおいて、MIGAは投資受入国や民間投資家のための世銀グループの商品やサービスを利用しながら、重点分野への民間セクターによる投資を喚起し、世銀グループ内の補完的な強みを活用する能力を発揮しました。

中東・北アフリカ地域の経済は依然として相当な緊張状態に置かれています。こうした国々は経済的にも金融面でも移行期にあり、政治的な移行期にある国もありま

す。MIGAがチュニジア、モロッコ、ヨルダン、ヨルダン川西岸、ガザのプロジェクトを支援した結果、待望された海外投資が流入したことにより、雇用と知識、そして技能の移転がもたらされるでしょう。

本年度におけるMIGAの好調な実績は、世銀グループがさらに強力で健全な組織を構築し、新たな困難に備える取り組みを前進させるうえで貢献しました。これは、小林いずみ長官および運営チームが健全なリーダーシップを発揮し、革新的なアプローチを採用した結果であり、MIGAの職員が献身的に仕事に取り組んだ成果でもあります。

今回のメッセージは、私が世銀グループ総裁として皆様にお送りする最後のメッセージとなりました。この必要不可欠な組織の任務を進めるにあたって総務会や理事会、その他のパートナーの皆様からいただいた助言やご支援に感謝の意を表します。特に、世銀グループの首脳陣と献身的で勤勉であり、思いやりのある職員に謝意を表します。世界各地で開発という仕事に命を吹き込んだのはあなた達です。皆さんと一緒に仕事できたことを誇りに思います。



ロバート・B・ゼーリック  
2012年6月30日

## ジム・ヨン・キム世銀グループ総裁からのメッセージ

MIGAの2012年度年次報告書を発表できることを嬉しく思います。本報告書は世界の経済環境が困難を極める中で、MIGAがどのような業績を残し、どのように有効性を発揮したかを紹介しています。



本報告書は、繁栄の構築と貧困の撲滅という世銀グループ共通の目標に向けて前進するうえで世銀グループ間で協力することの重要性に加え、外部のパートナーと連携することの重要性について強調するものとなっています。

現在、世銀グループは包括的かつ持続可能な成長と社会の発展を加速させる絶好の機会を手に入れています。世銀グループは各国によるコスト効率のよい社会的セーフティネットの構築を援助しながら、差し迫った圧力に対応するクライアントへの支援を継続しています。しかし、世銀グループはまた、各国が世銀グループからの融資や知識、経験、専門技術を活用し長期的な開発戦略を立案・実施する際に支援を行う態勢も整えています。

理事会の皆様、パートナーやクライアントの皆様、さらにワシントンDCやその他世界各地に駐在する世銀グループ

の献身的な職員の皆さんとともに働くことを心待ちにしています。差し迫った圧力に対応することができるよう途上国を支援して、将来の機会に目を向けるという世銀グループの使命はこれまでになく重要なものとなっています。この素晴らしい仕事をお引き受けできて光栄に思います。

A handwritten signature in black ink, which appears to be "Jim Yong Kim". The signature is fluid and stylized, with some loops and a long horizontal stroke at the end.

ジム・ヨン・キム  
2012年7月1日

## 小林いずみMIGA長官からのメッセージ

この1年間における世界経済の混乱により、成長パターンにも変化が生じました。欧州の先進国で緊張が高まり、利益が失われる一方で、途上国はペースこそ落ちたものの、引き続き成長を牽引しました。

こうした逆風を受けて、リスクや不確実性が高まる厳しい市場において長期的に高リターンを上げる機会を求めて、多くの企業が投資やリスク軽減の戦略を再評価し始めました。

その結果、2012年度はMIGAの投資保証への需要が増加しました。リスクに対する認識が高まり、投資家がMIGAの支援を受けることができる途上国の市場で機会を探ったことによるものです。MIGAが本年度に発行した新規の投資保証は27億ドルに上り、現下の環境を考慮すると前年度に比べて大幅な増加となります。本報告書でも紹介していますが、あらゆる地域やセクターで保証を実施した結果、ポートフォリオの多様化が進んだことを喜ばしく思います。

MIGAの活動が好調だったのは、支援しているプロジェクトの多くが社会に変革をもたらすものだったからです。こうしたプロジェクトのおかげで、投資を最も必要としている世界の最貧国が電力や輸送手段、さらに効率的な技術を手に入れることができます。MIGAは、インフラや農業関連産業、製造業など幅広い開発インパクトをもたらすセクターに民間資本を集めることを通じて、途上国に生産的な対外直接投資（FDI）を誘致するという自らの使命を果たすのみならず、受入国政府も限られた財源を他の必要不可欠なサービスの提供に振り向けることができます。

これは特に脆弱国および紛争影響国に当てはまるものです。2012年度に脆弱国および紛争影響国を支援するため



の新規保証額は前年度の2億3750万ドルから48%増の3億5130万ドルとなりました。このように、MIGAが脆弱国および紛争影響国という重点分野の1つで成果を上げることができたことは、MIGAの努力を証明するものとなっています。2012年度の事業にはMIGAが管理するヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金の保証を受けたプロジェクト2件が含まれています。何年間もの紛争を経てやっと安定を築こうという極めて重要な移行期にあるこれらの国々の多くが再建に取り組む中、MIGAは待望のFDIをもたらし、その再建の取り組みにおいて重要な役割を果たしています。

MIGAはさらに、サブサハラ・アフリカにおける開発への取り組みを強化しました。この地域は非常に大きな機会を有しながら急速に発展を遂げている地域の1つです。MIGAが2012年度にこの地域で支援したプロジェクトは保証総額の24%を占めており、前年から倍増しました。本報告書ではこうしたプロジェクトのいくつかを紹介します。

中東および北アフリカ地域への支援も本年度の重点分野の一つです。この地域では雇用と機会を創出するための投資の必要性がこれまでになく高まっています。MIGAは地域の会議や出張を通じてそれぞれの国の問題に詳しい方々に直接お会いしてお話を聴くなど、いくつもの方法で接触を図りました。MIGAの関与が奏功し、一部の国では強力なプロジェクトが実施されており、本報告書でも紹介して



いますが、この地域でのMIGAの活動の成果は著しく改善しました。

本報告書はMIGAと世銀やIFCとの連携などパートナーシップを重視したことにも触れています。その目的は世銀グループ内での協力や関係を強化し、共同活動の機会を展開させ追求するための基礎を構築することにあります。報告書で取り上げているケニアの民間電力プロジェクトでは、世銀グループ内の様々な商品を相互補完的に組み合わせました。投資家が参入を躊躇している国への投資資金を集めるうえで世銀グループが提供する共同の解決策が有効であることが当プロジェクトによって明らかになりました。MIGAは世銀グループ内での連携を積極的に行っているほか、MIGAは多数国間および二国間の開発機関、世界の多くの輸出信用機関、保険会社、ベルン・ユニオンといった業界団体など、世銀グループ以外の機関との重要な協力関係も維持しています。こうした協力関係はMIGAが優れたプロジェクトを見出し、保証を行ううえでも、共同でリスク管理を行ううえでも、重要な役割を果たしています。

MIGAがアジア地域の拠点（ハブ）を設置して丸1年が経ち、成果があったことにも触れておきたいと思います。この拠点はオーストラリアや日本の投資家だけでなく、中国、インド、韓国、シンガポールなど潜在的な「南」の投資家ともビジネスを発展させることを特に重視しています。アジアで地域的に行われる主要なビジネスイベントに積極的に参加しながら、このように対象を絞って投資家に働きかけることで、クライアントとの連携能力の強化につながり、プロジェクト開発の初期段階で機会を追求することが可能となります。さらに、MIGAは本年度、欧州、中東、アフリカを管轄する拠点をパリに設置しました。これ

はアジアの拠点に倣ったものです。この拠点は前途有望なスタートを切っており、対象地域向けの潜在的なプロジェクトのための強力なパイプラインを構築しています。

ワシントンでは、MIGAの副総裁兼最高業務責任者としてミシェル・ウォムザーが就任しました。ミシェルは長年、世銀グループで経験を積んでおり、MIGAをさらに強力なものとしてくれます。MIGAプロフェSSIONナルズ・プログラムなどを通じて新たな職員も加わりました。このプログラムによって、採用数の少ない国々から若く多彩な人材を新たに採用することが可能となっています。

MIGAの職員が本年度、専門家として献身的に務めてくれたことに感謝します。困難が続く時期において、職員は一層職務に励みました。MIGAが人々の生活の向上させる投資を促進するという使命を引き続き果たす中で、来年度の展望にも期待を寄せています。

最後に、この場をお借りして、継続してご支援くださっている理事会の皆様にご感謝を申し上げます。ロバート・B・ゼーリック前世界銀行グループ総裁の本年度のリーダーシップに感謝の意を表すと同時に、後任のジム・ヨン・キム総裁を歓迎いたします。



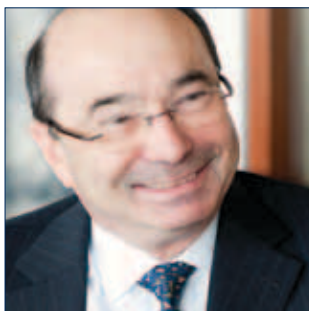
小林いずみ  
2012年6月30日

MIGAの  
運営チーム

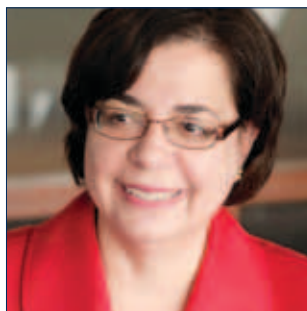
小林いずみ  
長官



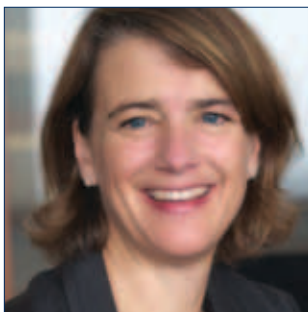
MICHEL WORMSER  
副総裁兼最高業務責任者



ANA-MITA BETANCOURT  
取締役兼法務顧問



KEVIN W. LU  
アジア・大洋州担当取締役



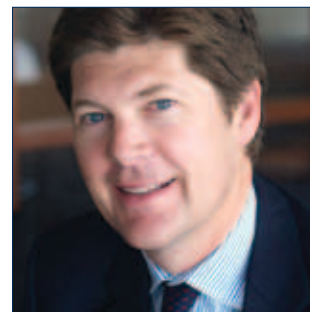
EDITH P. QUINTRELL  
業務担当取締役



LAKSHMI SHYAM-SUNDER  
最高財務責任者兼  
財務・リスク管理担当取締役



RAVI VISH  
チーフエコノミスト兼  
経済・政策担当取締役



MARCUS S. D. WILLIAMS  
戦略・業務担当  
アドバイザー

MIGAの

## 総務会および理事会

加盟国177カ国を代表する総務会および理事会がMIGAのプログラムや活動を指導しています。各加盟国はそれぞれ総務1名と総務代理1名を任命します。MIGAの権能は総務会にゆだねられ、総務会はその権能のほとんどを、25名で構成される理事会に託しています。議決権数は、各理事が代表する国の出資比率に応じて加重されます。

理事会はワシントンDCにある世銀グループ本部で定期的に会合を開き、投資プロジェクトの審査と決定、ならびに全般的な運営方針の監督を行います。

各理事は以下の常任委員会のいずれか1つ以上の委員も務めています。

- 監査委員会
- 予算委員会

- 開発効果委員会
- ガバナンス・運営委員会
- 倫理委員会
- 人事委員会

これらの常任委員会は、MIGAの方針や手続きについての深部にわたる検証を行うことにより、理事会が監視責任を果たす際に役立っています。



### 2012年6月30日現在のMIGA理事会

起立、左から右へ：Rogerio Studart、Gino Pierre Alzetta、Ingrid Hoven、Agapito Mendes Dias、Merza Hasan、Piero Cipollone、Jorg Frieden、Vadim Grishin、Marie-Lucie Morin、Shaolin Yang、Marta Garcia、Hekinus Manao、Sid Ahmed Dib、Rudolf Treffers、In Kang Cho、Hassan Ahmed Taha、Mukesh Nadan Prasad

着席、左から右へ：Ian Solomon、Felix Camarasa、Ambroise Fayolle、Susanna Moorehead、Abdulrahman Almofadhi、Anna Brandt、Renosi Mokate、林信光

開発インパクト



2011年下半年に世界的な経済活動が鈍化し、2012年当初に市場のセンチメントが顕著に改善した後、5月にはユーロ圏の不透明感が高まり、世界中の金融市場は再び混乱に陥りました。この展開は国際金融危機の余波がまだ完全に収まっていなかったことを見事に裏付けるものでした。金融市場に不透明感が漂う中、高所得国が大幅な財政赤字と債務を抱えながら財政再建を迫られていることが、繰り返し発生する乱高下の要因となっているようです。

それにもかかわらず、これまでのところ、ほとんどの途上国では2011年下半年より状態が改善しています。つまり、実質的な成長の勢いは途上国にあり、それは昨年と同様に損なわれていないということです。世銀によると、2012年の途上国の成長率は5.3%と見込まれています。国際経済の成長パターンがここまで大きく変化したことは、世界がかつてないほど急速に移り変わっていることを示しています。

## FDIの動向

2011年に途上国に流入した対外直接投資（FDI）は推計で23%増加し、6250億ドルに達しました。ほとんどの増加は上半期において見られました。2012年には5180億ドルに減少することが見込まれていますが、世銀は2013年には持ち直すと予想しています。

世界のFDI流入額のうち、途上国の受入額も高まっています。特に、サブサハラ・アフリカの多くの国々はいまや投資家から、新興のフロンティア市場としてみなされています。カーボヴェルデ、ガーナ、ケニア、モザンビークなどがそうです。2011年に途上国に流入したFDI総額のうち、バングラデシュ、パキスタン、スリランカなどアジア向けが50%以上を占めました。

さらに、「南・南」（途上国間）投資が新たなFDIの供給源として従来型の投資を上回りつつあります。欧州や米国内の従来の供給源がこのところの景気後退の影響を受ける中、ブラジルや中国、インド、韓国、マレーシア、シンガポール、南アフリカといった国から新たな投資家が続々と登場しています。2011年にアジアから流出したFDIは1270億ドルに達しました。

## MIGAの役割

こうしたFDIの動向はMIGAにとって特に重要です。というのも、途上国へのFDIの流入を促進するというMIGAの使命と合致しているからです。MIGAは積極的にFDIの動向を追跡し、それに応じた対応をとっています。MIGAは本年度、新たな商品を導入して、その結果、様々な種類の

投資を保証できるようになりました。アフリカで投資の機会が増えていることを受けて、MIGAは人材を投入して商品開発に努めました。アフリカとアジアでインフラプロジェクトを支援する官民パートナーシップが増加していることに着目し、MIGAは政府当局者と会合を開きながら、このようなパートナーシップの価値を伝えています。

MIGAは投資家センチメントの評価も行っています。MIGAが最近実施した調査によると、投資家の半数以上が新興国向けの投資を増やすことを検討しています。しかし、こうした関心とは裏腹に、非商業的な投資リスクについての認識も再び高まっています。

これは驚くべきことではありません。世界がおしなべて不安定化する中で、株主や貸し手が、中東や北アフリカの情勢から教訓を学び新たな規制の圧力にさらされるなど、リスクに対して敏感になっている時こそ、よりリスクの高い市場に投資機会がシフトしていきます。様々なリスク・プロファイルに起因する、解決が難しいように思えるこうした緊張関係はどのようにして解消されるのでしょうか？ MIGAが12月に公表した報告書「World Investment and Political Risk 2011（世界の投資と政治的リスク2011）」では、投資家は主としてマクロ経済上のリスクと資金を確保する上での困難性について懸念するが、中期的には政治的リスクに注目することが指摘されています。つい最近では、一部の投資家によって、表面上の安定の影に潜む不平等や社会的緊張が注目されつつあります。このような投資家は、政治経済、雇用、若年層の機会の有無をこれまで以上に重視してリスク分析を行っています。

このような状況下で、多くの投資家はシステミックリスクの軽減を重視した戦略の策定を進めています。これらの戦略には、現地での協力関係、優れた情報源、契約の公平性への配慮、環境面および社会面での持続可能性、地域社会への見返り、こうしたリスクを部分的に緩和するMIGAのような組織との関わりなどが含まれています。また、地域に従来の投資家を呼び戻し、新たな投資家の参入を促す手段として、MIGAの政治リスク保険（PRI）を利用することもできます。

2012年度のMIGAの保証額は昨年度から引き続き増加し、歴史的な高水準に達しています。リスク認識が高まり、フロンティア市場に関心が集まれば、政治リスクを扱う保険会社のビジネスが拡大することは先に指摘しましたが、MIGAの観点からすれば、保証額の増加傾向はこの点を証明するものであると考えています。

MIGAは「World Investment and Political Risk 2011（世界の投資と政治的リスク2011）」の中で、FDIに占めるPRIの割合は1990年代半ばの5%から8%という低水準から現在の13%から15%の水準までに上昇したことを指摘し、PRIに対する需要が増加傾向にあることを明確に示しています。MIGAは他の保険会社が対象外とする分野に参入しており、PRI市場において重要な役割を果たしています。

## MIGAの戦略的重点分野

MIGAは4つの戦略的重点分野に重点的に取り組んでいます。この戦略的重点分野を特定する際には、MIGA加盟国の開発ニーズや変化するFDI環境とPRI市場からの要求のほか、MIGA自らの比較優位を重視し他の保険会社を補完することの必要性も勘案しました。

この中でMIGAが最も重視している分野は世界の最貧国に対するFDIの促進です。2012年度にはMIGAの投資保証総額のうち、この分野が41%を占めました。MIGAが本年度、最貧国で支援したプロジェクトの平均規模は大幅に拡大しました。この分野の例として、ガーナやケニア、ルワンダの発電プロジェクトなどが挙げられます。

MIGAのもう一つの重点分野は「南・南」投資の促進です。本年度の「南・南」投資向けの保証額は全体の22%を占めています。先に挙げた戦略的優先分野と同様に、MIGAが支援した「南・南」投資プロジェクトの平均規模も大幅に拡大しました。「南・南」投資の事例にはトルクメニスタンの製造業プロジェクトやパキスタンの水力発電プロジェクトがあります。

MIGAの戦略的重点分野には紛争影響国も含まれています。何年間もの紛争を経てやっと安定を築こうという極めて重要な移行期にある国を含め、紛争影響国の再建の取り組みにMIGAが深く関与しています。紛争影響国を重視するのは、MIGAは他の保険会社が引き受けられないプロジェクトを保証することができるからです。MIGAが支援した紛争影響国のプロジェクトとしてヨルダン川西岸のマジョール種ナツメヤシ農場の開発があります。また、アフガニスタン国内の治安情勢が不安定であるにもかかわらず基本的な電気通信サービスを提供しているMTNアフガニスタンにも支援を継続しています（本年度に新規の保証を発行しました）。本年度のMIGAの保証額のうち、紛争の影響を受けたり脆弱な状態にある国や地域のプロジェクトは13%を占めています。

複合プロジェクトへの取り組みも重点分野の1つです。その例として、アルバニアやパキスタンの水力発電プロジェクトやウズベキスタンのガス開発プロジェクト、コートジボワールの有料橋梁プロジェクト（ボックス1を参照）、パナマの輸送機関プロジェクト、中国の排水処理施設プロジェクト3件などが挙げられます。2012年度の保証額のうち、複合プロジェクトは60%を占めています。

新規保証額のうち、4つの重点分野のプロジェクトは70%を占めています。

MIGAは世銀の開発目標や優先事項と合致するプロジェクトにも力を入れています。具体的には、中所得国を継続的に支援するほか、食料危機が続く中で信頼できる農業関連産業も支援しています（ボックス2を参照）。MIGAはあらゆる活動において、受入国や民間投資家のために世銀グループ傘下の各機関が提供する知識、商品、サービスを利用し、世銀グループの相互補完的な強みを積極的に活用しています。

MIGAが本年度実施した投資保証は、地域およびセクターともに非常に多様性に富んでおり、いくつかの革新的な案件で成り立っています。開発の成果は注目に値するものとなりました。MIGAが2012年度にサブサハラ・アフリカ向けに提供した新規保証額は倍増し、全体の24%を占めています。支援を受けたプロジェクト17件のうち14件はIDA融資適格国が占めています。2012年度の保証総額のうち、インフラプロジェクト向けの融資が大幅に増加しました。こうしたインフラプロジェクトは、継続的かつ持続可能な投資を必要としている国々に対して電力や輸送機関、そしてより効率的な技術をもたらす転換的プロジェクトとなっています。MIGAは、幅広い開発インパクトを有する民間資本を導入することによって、自らの使命を果たしているのみならず、受入国政府も限られた財源を使って他のサービスを提供することが可能となっています。

## 目下の問題への対応

途上国向けのFDIが減少してもおかしくないときにFDIを促進・維持することは、時として、目下進行中の問題への迅速な対応が求められます。多くの場合、MIGAはFDIを促進・維持するために反循環的な役割を担っています。例えば、非常時に資金の回収に乗り出したい銀行を支援したり、他の保険会社が見捨てたプロジェクトに参加したり、紛争が終結した国に最初に保証を行ったりしています。

MIGAは本年度、中東・北アフリカ地域（MENA）の情勢を考慮し、この地域を引き続き重視しました。この地域は不透明な要素が多く、また、当地域の多くの国々は伝統的に欧州からの投資に依存していましたが、その欧州はいまや自らの財政問題に取り組んでいます。にもかかわらず、雇用と機会の創造につながる投資の需要はかつてないほど

高まっています。MIGAは今こそ活動を強化して、民間セクターが扱うことのできない課題に取り組むべきだと考えています。

MENA地域への取り組みの一環として、MIGAはこの地域へのFDIを維持・促進するために10億ドルの資金の動員に積極的に着手しました。MIGAはこの計画を2011年度末に発表しました。この取り組みは、この地域に既に流入しているFDIと今後流入するFDIを対象とし、政治リスク保険の市場能力を維持し、各国の輸出信用機関の活動を支えることを目的としています。MIGAはヨルダン、モロッコ、チュニジアで総額4億3290万ドルの保証を発行し、この取り組みで大きな成果を挙げました。MIGAは、イスラム金融に対応したプロジェクトに対する保証能力を実証したことで、この地域への投資を支援する能力をさらに強化することが可能となりました。

さらに、本年度においては、MIGAがヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金の活用促進に取り組んだ努力が実を結び、ヨルダン川西岸とガザでそれぞれ、農業関連事業と製造業に保証を発行するに至りました。

MIGAはMENA地域向けの保証を発行していることを明確に打ち出すため、世界中の投資家や資金の貸し手、政府への働きかけを強化しました。MIGAはこの地域への投資に関する会議を主催するなどして、世界各地で政治的リスク管理の一端を担ってきました。MIGAがドバイ国際金融センターおよびイスラム投資・輸出保険機関と共催したドバイでの会議は好評を博しました。さらに、MIGA長官はこの地域の国々を訪問し、政府高官や民間セクターの代表などと会談を行い、開発にとって有益であるFDIの重要性をアピールしました。また、MIGAは報告書「World Investment and Political Risk 2011（世界の投資と政治的リスク2011）」向けにこの地域に投資している投資家を対象に調査を行いました。

MIGAは2012年度にドーヴィル・パートナーシップとも連携しました。ドーヴィル・パートナーシップとは、MENA地域のマクロ経済の安定性や社会的一体性、より平等な成長の実現を支援する国際金融機関間の取り組みです。

他にもMIGAが注視した地域があります。欧州と中央アジアです。ユーロ圏の危機が西欧の経済大国にもたらす影響について世界の注目が集まりましたが、危機の影響は欧州の新興国、特に中欧や南東欧州の最貧国の人々にも及びました。その結果、MIGAは世銀グループ内の他の機関と協力してこの地域に提供可能な支援の拡大に努めました。この働きかけの一環として、MIGAは今後2年間でこの地域での保証額を10億ドル増やす計画を発表しました。2012年度に既に9億2800万ドルの保証を発行しているため、目標はほぼ達成しました。

## MIGAと環境

投資を成功させて受入国の開発に貢献するには、健全な環境パフォーマンス、天然資源を管理するうえでの持続可能性、社会的責任が非常に重要なものとなります。MIGAはこうした問題についてはパフォーマンス基準を忠実に守っています。また、MIGAの環境・社会の専門家が支援プロジェクトの潜在的影響を評価したうえで、影響を最小限に抑え軽減するための方法についてクライアントに助言を行っています。

MIGAはまた、世銀グループ内で策定された環境や社会に関する政策イニシアティブに貢献しました。この中には「環境戦略：万人のためのグリーンかつクリーンで、対応力に富んだ世界に向けて」が含まれています。この環境戦略は、世銀グループの全ての機関が関与する統合的アプローチを強調しており、持続可能性と包括性を重視しつつ成長を支える新たな開発の道筋を打ち出しています。この戦略では環境管理における民間セクターの関わりも重視しています。

MIGAはさらに、世銀グループの持続可能な開発ネットワークフォーラム2012の一環として、持続可能な成長において民間セクターが果たす役割についてのパネルディスカッションを開催しました。フォーラムではより一般的な意味での持続可能な成長について議論が行われていましたが、MIGAの取り組みを通じて民間セクターの役割という視点が議論に持ち込まれました。

## MIGAによる開発の有効性

MIGAでは、その業務によってもたらされる開発インパクトを評価する際に、開発インパクトの測定基準、プロジェクトの自己評価、独自の調査という3つの柱を用いています。

MIGAは先ごろ、投資保証全体を測定できる開発インパクトの測定基準を導入しました。その測定基準とは、直接創出された新規の雇用、研修予算、現地調達財の価値、政府に支払った税金および料金、地域社会への投資額、借入金による投資額です。

2011年度以降、MIGAは保証契約者に対して、保証契約締結から3年が経過した段階でこれらの指標を用いてプロジェクトのパフォーマンスを評価し、結果を報告するよう義務付けました。来年度にはこの結果が明らかになる予定です。

また、MIGAは自己評価プログラムの実施を通じて、完了したプロジェクトから開発に関する教訓を引き出し、その教訓を現在および将来のプロジェクトに応用することにも引き続き重点を置いています。このように組織的としての学習ツールがあったおかげで、MIGAは業務から学んだ教

訓を十分に理解する同時に、株主やその他の利害関係者に対する説明責任を強化することができました。

MIGAは2012年度にブラジル、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国、中国、コスタリカ、ロシア連邦、セネガルの投資保証案件7件について評価を完了しました。各プロジェクトは事業パフォーマンス、経済的持続可能性、民間セクターの開発インパクト、開発の成果、環境面および社会

面での成果、戦略の妥当性、MIGAの有効性という基準に基づいて評価されました。

各プロジェクトの評価はMIGAのエコノミスト、環境および社会の専門家、引受担当者が行い、独立評価グループ(IEG)が独自にその評価を検証しました。この評価は業務担当職員の意識を高め、学習を促進することを目的としています。

## ボックス1ーコートジボワールのインフラ再建

本年度、MIGAはコートジボワールのアンリ・コナン・ベディエ有料橋梁および連絡道路の建設および運営を支援しました。

本プロジェクトは当初、1996年に開始されましたが、同国の内戦の長期化により中断されていました。本プロジェクトは同国のインフラ再建への取り組みにおいて重要な節目となりました。

本プロジェクトは官民パートナーシップ・プロジェクトとして組成され、BOT（建設・運営・譲渡）方式による30年間のコンセッション契約に基づき実施されています。本プロジェクトはエブリエ潟にかかる橋および居住地域リビエラと工業地域マーコリーの間を南北に結ぶ複数の連絡道路の資金調達、設計、建設、運営、維持を行うもので、同国の内戦終結以降、初の官民パートナーシップ・プロジェクトとなりました。

MIGAはBouygues Travaux Publics（フランス）とPan African Infrastructure Development Fund（南アフリカ）の株式投資および劣後ローン、Africa Finance Corporation（ナイジェリア）の劣後ローンおよびシニアローン、BMCE Bank International Plc（英国）およびFMO（オランダ）のシニアローンを対象に1億4500万ドルの保証を提供しています。投資資金を確保するには、MIGAによる最低収入保証の保証が不可欠でした。MIGAはこのプロジェクトに資金を提供しているすべての民間セクターの貸し手を保証対象としています。



アビジャンで現在使用されている橋とインフラには非常に大きな負担がかかっており、交通量の増加にも対応できないため、橋の建設は同国政府にとって最優先事項となっています。新しい橋が完成すれば、移動時間が大幅に短縮されるほか、交通全体が改善することが予想され、アビジャン市内の慢性的な交通渋滞も緩和されるでしょう。本プロジェクトには、内戦の長期化で深刻な影響を受けた国で民間セクターの取り組みを活発化させるという重要なデモンストレーション効果も期待されています。



## ボックス2—南部アフリカの食糧安全保障への貢献

サブサハラ・アフリカでは食糧の増産が急務となっていますが、ザンビアでは事態は特に深刻です。ザンビアでは、収入が増え、生活水準が上昇した結果、鶏肉を含めた肉製品の消費需要が増加しています。

同国で牛肉や鶏肉を生産する主要企業のトラックが国中を走り回っています。世銀とUK AIDの研究によると、ザンビアの牛肉産業と酪農業界には富や雇用を生み出す可能性が秘められています。しかし、こうした業界が成功するかどうかは、手ごろな価格で質の高い飼料を手に入れられるかどうかなど、様々な要素に左右されます。MIGAのクライアントでトウモロコシや小麦、大豆を生産するChayton Africaは、ザンビアが実力を発揮しサブサハラ・アフリカの穀倉地帯になれるように支援しています。

Chayton Africaは2010年にザンビアで初めての投資を行い、2つの既存の営利農場と同国の中央州にあるムクシ農場地区の契約農業事業を取得しました。Chayton Africaはこれまでに6つの既存の営利農場を賃借しており、その農地面積は合計で4000ヘクタールを超えています。このうち1250ヘクタールでは耕作が行われており、430ヘクタールで灌漑が行われています。Chobe Agrivisionという企業では、灌漑を十分に行い二期作を可能とする農業モデルに基づき農場を運営していますが、この農場は冬に小麦を、夏にはトウモロコシと大豆を交互に育てて、1年に2度収穫を行っています。Chayton Africaの最高経営責任者のNeil Crowder氏はこのように指摘しています。「ザンビアには大きな可能性があります。しかし、今のところ、潜在的に肥沃なギニアサバンナ地帯にある農地のうち、作付けが行われているのは1.1%に過ぎません。輪作や無耕農業、土壌と水の管理、技術の改善といったさらに効率的な農業手法を導入すれば、ザンビア、そしてアフリカ全体は豊かな太陽の光と肥沃な土地を十分に活用して、増加し続ける人口を養うことができると私たちは信じています。」

Chayton Africaはプライベートエクイティ投資会社としてスタートしました。同社は2009年にMIGAに対し、資金調達が非常に困難な環境で投資を行うための資金集めを支援するよう提案しました。Crowder氏は「私たちは南



部アフリカで持続可能な農業ビジネスを行いたいと考えていました。この地域に強力かつ有望な市場が存在すると投資家を説得することが課題でした」と話しています。また、Crowder氏は「私たちは政治リスクを気にする投資家の懸念を緩和するためにMIGAによる保証を要請しました」と述べました。MIGAは2010年にザンビアとボツワナで計画されていた投資を支援する目的でChayton Capital LLPと条件付きの保証を締結しました。この契約に基づき、MIGAはこの基金による投資に政治リスク保証を提供することになりました。MIGAは2011年6月にChaytonがザンビアで行った初の投資に保証を発行しました。本年度もMIGAはChaytonの拡張と設備投資を対象に950万ドルの投資保証を提供しました。

生産開始から2年目を迎えたChobe Agrivisionは本格的な活動に入るとともに、将来も見据えています。新興企業としてスタートした同社は、耕作面積を1万ヘクタールに拡大し灌漑を行き渡らせることを目指して、スタッフを育て技術を磨いています。また、同社は新たな学校の建設など地域社会に貢献するための複数の大規模プロジェクトも計画しています。

---

## MIGA加盟国－177カ国

### 先進国－25カ国

オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、チェコ共和国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイスランド、アイルランド、イタリア、日本、ルクセンブルグ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポルトガル、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス、米国

---

### 途上国－152カ国

#### アジア・大洋州地域

アフガニスタン、バングラデシュ、カンボジア、中国、フィジー、インド、インドネシア、韓国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、モルディブ、ミクロネシア連邦、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パプアニューギニア、フィリピン、サモア、シンガポール、ソロモン諸島、スリランカ、タイ、東ティモール、バヌアツ、ベトナム

#### ヨーロッパ・中央アジア地域

アルバニア、アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、キプロス、エストニア、グルジア、ハンガリー、カザフスタン、コソボ、キルギス共和国、ラトビア、リトアニア、マケドニア（旧ユーゴスラビア共和国）、マルタ、モルドバ、モンテネグロ、ポーランド、ルーマニア、ロシア連邦、セルビア、スロバキア共和国、タジキスタン、トルコ、トルクメニスタン、ウクラナ、ウズベキスタン

#### ラテンアメリカ・カリブ海地域

アンティグア・バーブーダ、アルゼンチン、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グレナダ、グアテマラ、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、セントキッツ・ネイヴィス、セントルシア、セントヴィンセント・グレナディン、スリナム、トリニダード・トバゴ、ウルグアイ、ベネズエラ

#### 中東・北アフリカ地域

アルジェリア、バーレーン、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、カタール、サウジアラビア、シリアアラブ共和国、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン

#### サブサハラ・アフリカ地域

アンゴラ、ベニン、ボツワナ、ブルキナファソ、ブルンディ、カメルーン、カーボヴェルデ、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ（人民共和国）、コンゴ（共和国）、コートジボワール、赤道ギニア、エリトリア、エチオピア、ガボン、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニア・ビサウ、ケニア、レソト、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリタニア、モーリシャス、モザンビーク、ナミビア、ニジェール、ナイジェリア、ルワンダ、セネガル、セーシェル、シエラレオネ、南アフリカ、南スーダン、スーダン、スワジランド、タンザニア、トーゴ、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ

---

### 加盟要件の適合過程にある国－途上国－3カ国

コモロ連合、ミャンマー、およびサントメプリンスペ

---

## 連絡先

### 上級幹部

小林いずみ 長官	ikobayashi@worldbank.org
Michel Wormser 副総裁兼最高業務責任者	mwormser@worldbank.org
Ana-Mita Betancourt 取締役兼法務顧問	abetancourt@worldbank.org
Kevin W. Lu アジア・大洋州地域担当取締役	klu@worldbank.org
Edith P. Quintrell 業務担当取締役	equintrell@worldbank.org
Lakshmi Shyam-Sunder 最高財務責任者兼財務・リスク管理担当取締役	lshyam-sunder@worldbank.org
Ravi Vish チーフエコノミスト兼経済・政策担当取締役	rvish@worldbank.org
Marcus S.D. Williams 戦略・業務担当アドバイザー	mwilliams5@worldbank.org

### 地域拠点

アジア・大洋州 — Kevin W. Lu 地域担当取締役	klu@worldbank.org
ヨーロッパ — Olivier Lambert 地域担当マネージャー	olambert@worldbank.org

### 保険引受部門幹部

Nabil Fawaz 農産物ビジネス・製造・サービス	nfawaz@worldbank.org
Olga Sclovscaia 金融・通信	osclovscaia@worldbank.org
Margaret Walsh インフラ	mwalsh@worldbank.org
Antonio Barbalho 石油、ガス、鉱業、化学、エネルギー	abarbalho@worldbank.org

### 再保険部門

Marc Roex	mroex@worldbank.org
-----------	---------------------

### 商品に関する照会

Michael Durr	migainquiry@worldbank.org
--------------	---------------------------

### マスコミに対する窓口

Mallory Saleson	msaleson@worldbank.org
-----------------	------------------------

[WWW.MIGA.ORG](http://WWW.MIGA.ORG)

**Multilateral Investment Guarantee Agency**

World Bank Group  
1818 H Street, NW  
Washington, DC 20433 USA

t. 202.458.2538  
f. 202.522.0316